

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和2年8月末	令和2年11月末	令和3年2月見通し	令和3年5月見通し
-107千トン 〔 2140千トン〕 (95.2%)	-85千トン 〔 2055千トン〕 (96.0%)	+35千トン 〔 2090千トン〕 (101.7%)	+40千トン 〔 2130千トン〕 (101.9%)
2225千トン(104.0)	2060千トン(100.2)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和2年9月末	令和2年12月末	令和3年3月見通し	令和3年6月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は82,400円。前期比-200円。土木関連は季節的要因によりやや低調ながら堅調に推移した。中小建築案件では景気悪化による計画の中止や延期などが見受けられ建築需要の減少が目立った。物流倉庫のみ堅調で、その他は全般的に低調、前年を大きく下回る商いが続いた。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は85,000円。前期比+2,600円。土木関連は、堅調に推移しているものの建築関連では中小物件が少なく、低調な荷動きが続いた。スクラップ価格の急激な上昇に伴い、メーカーの売腰が強くなった。在庫は低い水準だが、先が見えない状況下、各社仕入を抑えて調整。	年明けから中小建築物の需要低迷が続いている。そのため、メーカー値上げの価格転嫁は道半ばで、難しい局面が続いている。流通は販売姿勢を緩めていないが、依然需要の盛り上がり欠ける中、高値が通りにくくなっている。年度末であっても動きに期待がもたず、値上げ玉も入り始めており、価格転嫁の難しい局面が続いている。	荷動き好転の兆しもなく、出庫低迷で在庫増も懸念される。需要が少ない中、スクラップ価格が高値で推移しており、メーカーは更なる値上げの雰囲気である。流通は慎重な仕入れ姿勢を続け価格転嫁に尽力することになる。メーカー値上げに追い付いていけない足踏み状態が続くと、流通は厳しい状況に立たされることになるだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

1月の仕入量は151,438トン前月比-9.6%、前年同月比-9.2%、販売量は144,322トン前月比-10.1%、前年同月比-12.3%。仕入量は前月比、前年同月比とも減少、販売量は前月比、前年比とも著減となりました。在庫量は222,934トン前月比+3.3%、前年同月比-7.7%、在庫量は前月比増加、前年同月比は減少しました。在庫率は154.5ポイントと上昇しました。

建築向けは一服状態で低迷している状態です。中小ファブも山積みが低くしばらくはこの状況が続くと思われれます。

実需の低調が続く中、メーカーの大幅な値上げで流通は価格転嫁に苦慮する展開となっています。

4. 大阪の動向

（大阪）1月中旬頃まではメーカーの大幅値上げによる仮需、先行手配分があったが、中旬以降、実需に見合った数量になり、また昨年後半以降の中小物件は少なく、荷動きは良くない状態が続いている。スクラップ高騰により市況は採算ラインまで各流通は押し上げていかなければならないが、荷動きがよくないため、大変苦勞している状態。4月以降も荷動きは大きく変わらないが、昨年と同じくらの水準で推移するものと思われる。